

# 舞踊観賞者の感受性についての一考察

## — ダンス・パフォーマンスについて —

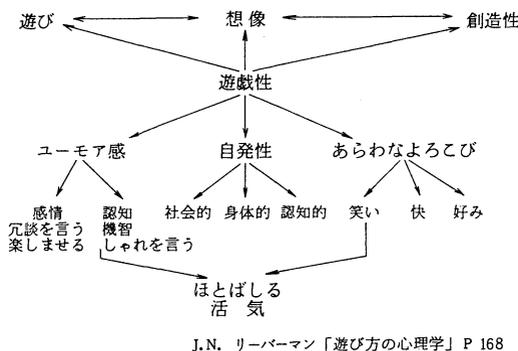
石黒 節子  
森田 恵美

### 1. 研究目的

今日の舞踊発表の傾向をみると、これまでの舞台芸術としての舞踊から、スタジオやギャラリーなどで、独自の表現を展開しているダンス・パフォーマンスが増えてきている。

本研究では、観客にダンス・パフォーマンスを見せ、因子分析を通してダンス・パフォーマンスにおける観賞構造を探ったものである。また、ダンス・パフォーマンスの観賞構造に遊戯の特性が見出されるかに注目し、J. N. リーバーマンの定義する遊戯性を参考に考察を行なった。

### 2. 遊戯性を構成する要素のモデル



リーバーマンによれば、遊戯性はユーモア、自発性、あらわなよろこびから成り立つとし、この遊戯性は遊び、想像、創造性に導く要因であるという意味を示している。リーバーマンは、新奇性、あいまいさ、不一致性、驚き、複雑性等の探索行動を活気づける要素が熟知された明確なものになるとき、遊戯の状態になるとしている。すなわち、未知の事柄が既知になるとき、その事柄に対し精神的ゆとりを持って対処することができるときに、遊戯の状態であるとしている。

### 3. 方法及び手続き

#### (1) 対象作品

- 作品A…カルメン・ブシャット作  
「Clear Water」
- 作品B…メル・ウォング作

「Implint」

出演者 パフォーマンス活動を積極的に行なっているモダン・ダンサー (J. K) に実際に踊ってもらった。

(2) 被験者…お茶の水女大学学生 108人

(3) 尺度構成

尺度は、J. N. リーバーマンの定義した遊戯の一要素であるユーモアに関する言葉、舞踊鑑賞語 (金城, 大城 1975), 美的快感に関する言葉 (石黒 1985) を参考に50項目を選び、ランダムに並べた。評定は、6段階評価である。

### 4. 結果及び考察

計算は、慶応義塾大学の計算センターのコンピュータ (機種: Facom34) を使用した。

データ処理は、主因子法を用いて因子を抽出し、その後バリマックス回転を行なった。

#### (1) 参考調査

観賞者のこれまでに見た表現行為の印象を調査した。(13語の中から適当な語を選択してもらい、因子分析によってその構造をみたもの)

#### (2) 作品A

〈因子負荷量の単純構造と因子解釈〉

〈作品A〉

1. 力動性		2. ユーモア, 新奇性	
激しい	.805	意外な	.802
ダイナミックな	.793	ハッとする	.706
力強い	.752	新しい	.650
高揚した	.700	驚いた	.625
エネルギッシュな	.668	面白い	.617
鮮かな	.618	ユニークな	.527
急速な	.571	特異な	.518
迫るような	.505		
固有値	5.5	固有値	3.91
寄与率	17.1%	寄与率	12.2%

3. 快的情緒		4. 美的印象	
自由な	.701	自然な	.635
流れるような	.583	親しみやすい	.622
軽快な	.521	わかる	.594
生き生きした	.519	美しい	.558
固有値	2.85	固有率	2.66
寄与率	8.9%	寄与率	8.3%

5. 満足			
良好な	.730		
楽しい	.558		
固有値	2.59		
寄与率	8.1%		

(3) 作品B

〈因子負荷量の単純構造と因子解釈〉

〈作品B〉

1. 快的情緒		2. 美的印象	
明るい	.804	高揚した,	.629
うきうきした	.730	恍惚とした	.621
良好な	.621	陶醉した	.590
解放的な	.618	生き生きした	.587
はなやかな	.595	熱中する	.582
自由な	.570	洗練された	.573
		見応えのある	.550
		流れるような	.547
		美しい	.502
固有値	5.64	固有値	5.12
寄与率	17.0%	寄与率	15.5%

3. ユーモア, 新奇性		4. 力動性	
意外な	.740	激しい	.731
面白い	.731	力強い	.719
ユニークな	.730	ダイナミックな	.681
ハッとする	.723	エネルギーが強い	.644
驚いた	.668	急速な	.552
特異な	.652	スペクタクルな	.513
新しい	.546		
固有値	5.12	固有値	4.24
寄与率	14.5%	寄与率	12.8%

調査の結果より、被験者がこれまでに見た表現行為の印象を選択した言葉の因子構造を探る参考調査からは、ユーモア性・新奇性、感動性の因子が抽出された。また作品Aからは、力動性、ユーモア、新奇性、快的情緒、美的印象、満足因子が抽出され、作品Bからは、快的情緒、美的印象、ユーモア・新奇性、力動性の因子が抽出された。ユーモア・新奇性の因子は、参考調査においてユーモア性の因子と、新奇性の因子に分かれていたが、本テストではユーモアと新奇性は同じ因子の中に抽出された。これらの因子は、リーバーマンのモデルによれば、遊戯性を構成する一特性として認められている。したがって、ダンス・パフォーマンスの観賞構造において、ユーモア・新奇性という遊戯の特性がみられることが示された。

力動性、快的情緒、美的印象の因子は、従来のモダン・ダンスにおける認知あるいは印象についての先行研究(参考文献16, 17)で抽出されており、また新奇性の因子も抽出されているが、ユーモアとは結びついていなかった。すなわち、ユーモア・新奇性の因子は観賞者を遊戯へ導くことを示していると同時に、ダンス・パフォーマンスの観賞構造を特徴づける因子であるといえる。

本研究より、今日の舞踊発表の傾向であるダンス・パフォーマンスには従来のモダン・ダンスにはない遊びの要素が見出されたといえよう。

【参考文献】

1) 市川浩・山口昌男: 別冊国文学。『身体論とパフォーマンス』学燈社 1985

2) 山口勝弘: 『パフォーマンス原論』朝日出版社。1985  
 3) ローズリー・ゴールドバーク(中原佑介訳): 『パフォーマンス』。リプロボート。1982  
 4) 『ユリイカー増頁特集 パフォーマンス』。青土社。1984  
 5) 『Performance Index 1952~1984』 A Source Book. 1985  
 6) 『肉体言語vol 12 パフォーマンス』。榊屋雲社。1985  
 7) 『朝日ジャーナル 1/18号 パフォーマンス ナウ!』。朝日新聞社。1985  
 8) 清水徹・山口勝弘: 『冷たいパフォーマンス』朝日新聞社  
 9) 渡辺 譲: 『芸術学』東大出版会  
 10) ホイジンガ(高橋英夫訳): 『ホモ・ルーデンス』中公文庫。1973  
 11) カイヨワ(多田道太郎, 塚崎幹夫訳): 『遊びと人間』。講談社文庫。1973  
 12) シラー(石原達二訳): 『美学芸術論集』。富山房百科文庫。1977  
 13) J. N. リーバーマン(沢田慶輔, 沢田端也訳): 『遊び方の心理学』。サイエンス社。1980  
 14) 岩下豊彦: 『SD法によるイメージの測定 — その理解の手引』。川島書店。1983  
 15) 柳井晴夫・岩井秀一: 『複雑さに挑む科学』。ブルーバックス。1976  
 16) 金城光子・大城宣武: 舞踊認知の因子分析的な研究。『体育学研究』。第21巻。第2号。p77~p86。1975  
 17) 石黒節子: 「舞踊のコミュニケーションに関する研究 — 印象構造を手がかりに —」。お茶の水女子大学「人文科学紀要」第38巻。1985

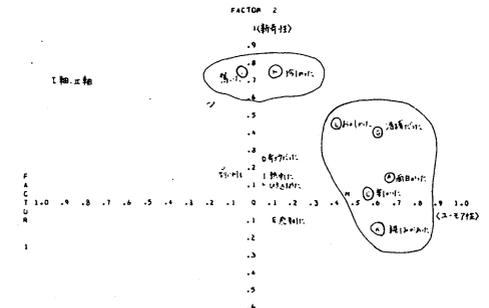


図 1

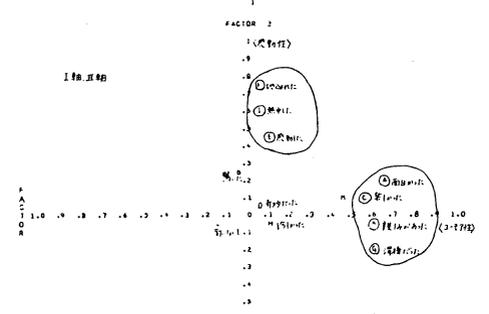


図 2